



岡山大学法学部だより



※ 本メールは登録された方にものみお送りしています

第 11 号(2010 年 9 月 29 日発行)
発行：岡山大学法学部 学部長室



すっかり秋らしくなりました。今年の猛暑の後では秋の風がひとときわありがたく感じられます。

法学部だより第 11 号をお届けします。今回は、9 月から新たに法学部の情報担当助教として赴任された羅 明振（な みょんじん）先生に新任のご挨拶をお願いしました。卒業生からのメッセージは、朝日新聞社で活躍中の吉岡桂子さんからいただきました。海外からのコラムはパリ便りの第 5 回です。

目次

- 新任のご挨拶
- 卒業生からのメッセージ（第 6 回）
- パリ便り ～ソルボンヌからの風～ （第 5 回）
- 法学部からのお知らせ
- 最近の話題

○ 新任のご挨拶

☆ 羅 明振（な みょんじん）助教

こんにちは。この 9 月から法学部の情報処理担当助教として赴任しました羅です。

私は韓国のソウルで生まれ育ちました。日本の生活は今年で5年目になります。最初日本に来た時は日本語が全然できない状態で、コンビニで物を買うことも怖かった記憶があります。今でも日本語や文化など、毎日日本での生活が勉強になっています。2005年9月に留学生として岡山大学大学院環境学研究科の博士課程に進学し、昨年3月に学位をとりました。その後、大阪で1年半くらい過ごして、また岡山に戻ってきました。私にとって岡山は日本での故郷であり、思い出が溢れるところでしたので、懐かしい気持ちでいっぱいでした。

家族は妻と2人暮らしですが、10月に息子が生まれる予定で、もうすぐ3人暮らしになります。現在は出産の準備で妻が韓国に帰っているため一人で寂しい時間を過ごしていますが、未来を想像しながら我慢しています。

法学部では、法学部学生向けの「情報処理入門」の授業を担当し、学部のホームページやサーバーの保守・管理、法学部学生および法学系大学院生の情報処理関係のサポートをしています。もともと専門は法学ではなく、統計学ですので、法学に関する授業やゼミは担当できませんが、機会があれば、犯罪の傾向を統計的に分析するなど、法学に貢献できる研究に挑戦したいと思っています。また、韓国語は得意なので、翻訳や通訳などで困ることがありましたら、いつでも声をかけてください。

これから法学部に役立つ1人前になるよう、一生懸命頑張りますので、どうぞよろしくお願い致します。

○ 卒業生からのメッセージ (第6回)

ニイハオ！2度目の北京特派員生活が始まりました。このメッセージを書いている今夜、到着したばかりです。

私は1987年3月に岡山大学法学部を卒業しました。山陽放送を経て朝日新聞社で記者となって20年が過ぎたところです。岡山生まれの岡山育ち。しかも県内で転校の経験すらありませんでした。それが転職後、和歌山、大阪、東京、上海、北京、ワシントンと転々としています。私にとって、岡山以外はすべて外国と言えるほど、足を踏み入れた当初はいつも未知の世界です。知り合いもないし、言葉も習慣も違います。そこは、ふるさと岡山以外の日本も外国も似たようなものです。生活に慣れ、分かり合える人を得るまで時間がかかる一方で、分かり合える人はどこにでもいます。

尖閣諸島沖の中国漁船衝突事件で、日本と中国の関係が大きく揺さぶられています。領土や主権の問題は、日中に限らず、譲れないことがたくさんあります。政治制度も抱える歴史も社会の規範も違います。異なる立場どうし妥協を重ね、うまくやりくりしながら共存するしか手だてはありません。相手の妥協を引き出すには自らは何をすべきか。日々の生活も外交も似通ったところがあります。

「最近の若者は内向きだ。留学や海外勤務を望まない」。「おじさん」たちの嘆きを取材を通じてしばしば耳にします。本当かな？

自分と異なる立場の誰かと知り合い、分かり合おうと格闘するうちに相手も自分もいつのまにか何かが少しだけ変わっている。私はそんな楽しさを、あちこちを転々とするうちに知りました。岡山大学の中にも中国を初めとして留学生も増えていることでしょう。似たところを探して触れ合うのはもちろんだけど、違うことを知り、悩み、そして楽しんでください。

1 3億の中国の人々と格闘しながら書く記事、読んでいただけたらうれしいです。

中秋節の翌日、青島ビールを飲みながら。

朝日新聞中国総局（北京）特派員（1987年3月卒業）吉岡桂子

○ パリ便り ～ソルボンヌからの風～（第5回）

すべては ≪ Bonjour! ≫ から始まる？

パリに来て5カ月になりますが、こちらで生活して気づくのは、一日のうちで見ず知らずの人に言葉をかけることが何かと多いことです。その言葉とは、皆さんもよくご存知の ≪ Bonjour! ≫（こんにちは！）です。すでに顔見知りの人に対して声をかけるのは当然として、そうでなくても何かの用で人に接する機会があれば、たとえば、お店やレストランに入るときはもちろん、バスに乗車するとき、スーパーのレジで自分の番が回ってきたときも、さらに図書館のカウンターで最新の雑誌を借り出すときにも、まずは ≪ Bonjour! ≫ とあいさつすることから始まります。

この慣習の良いところは、私の見るところ、見ず知らずの人との間でコミュニケーションが生まれることにあると思います。日本では店員さんに「いらっしゃいませ！」との声かけをしてもらっても、それに返す言葉が見当たらないため、実際には黙って店内に入っていく客が多いですが、≪ Bonjour ≫ は普通のあいさつなので、こちらからも気軽に店員に話しかけることができます。また店員にとっても、あいさつの仕方や声の調子などから、入ってきた客がどのような気質をもった人なのかをうかがうことができ、聞くところによると、これがその後の接客態度にも影響するそうです。フランス人、とくにパリの人々は愛想が良くないと言われることがありますが、これは、われわれ日本人が店員のあいさつを無視して、目も合わせずに黙ってブランド店などに入出入りすること（さらには、無断で商品に触ったりすること）にその一因があるのかもしれない。

さてそれでは、終わりはどうなのでしょう。会計の際に、代金を払う客と商品を渡す店員が互いの行為にまず「Merci!」（ありがとう！）と感謝しあった後、客が店を出るときに今度は「Au revoir!」（それではまた！）という言葉を交わします。さらに双方が互いを気に入れば、「Bonne journee!」（よい一日を！）という一言が加わることもあります。こうして軽やかに行われる一連の動きを傍目で見てみると、買い物とは単なるお金と物の交換ではなく、売り手と買い手との人間的なやり取りであることにあらためて気づかされます。

私も日本に帰ったら、「こんにちは！」から始めてみることにします。

井上 武史 准教授

○ 法学部からのお知らせ

☆第3回 法学部ホームカミングデイのご案内

法学部では、今年度も下記の要領で、第3回のホームカミングデイを実施します。

今年は、1980年に岡山大学法文学部が分離改組し、法学部が設置されて30年を迎えます。小畑隆資先生には、法文学部の分離改組から、法科大学院、大学院社会文化科学研究科設置などの最近までの法学部をめぐる動きを整理しお話しいただく予定です。

今回も、在学生と卒業生が交流できる機会としたいと思います。事前の申し込みは必要ありませんので、どうかこぞってご参加下さい。

日時： 10月23日（土）午後3時～午後5時半

場所： 文化科学系総合研究棟 2階 共同研究室

プログラム

1. 法学部長挨拶
2. 講演：小畑 隆資 名誉教授
法学部30年 ―法学教育と教員組織の変遷を中心に―
3. 法学部の教育・研究から

懇親会： 午後6時～午後7時半

マスカットユニオン 3階

（参加費1000円 在学生は無料）

（問合せ先 法学部長室 （担当：柏原） 電話：086-251-7470）

○ 最近の話題

☆教員近著

吉岡伸一ほか『取引先の相続と金融法務』（金融財政事情研究会）が出版されました。

☆学会報告

李禎之准教授が第3回4学会（日・米・加・豪 NZ）国際会議（8月27－28日、淡路夢舞台国際会議場）で研究報告を行いました。

Yoshiyuki Lee-Iwamoto (JSIL, Associate Professor, Okayama University)

“The ICJ as a Guardian of Community Interests? ? The Recent
Jurisprudence on Provisional Measures ?

.....

・本メールマガジンは、岡山大学法学部に関する情報を提供する目的で毎月 2 回程度配信されています。 ・岡山大学法学部の詳細情報に関しては、HP も併せてご覧ください。 岡山

山大学法学部 HP <http://www.law.okayama-u.ac.jp/>

・本メールマガジンには返信なさないようにお願いします。 ・本メールマガジンの配信を希望しない場合やメールアドレスの変更を 希望される場合には、以下の URL からご登録・解除ください。

<http://court.law.okayama-u.ac.jp/mail/register.html>

・ご意見・ご感想のある場合は、岡山大学法学部 情報委員会
joho@law.okayama-u.ac.jp までお願いいたします。

.....